

富士市中小企業景況調査結果

令和5年度 第3四半期【令和5年10月～12月】

令和6年1月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、206事業所(回収率65.0%)を対象に、「令和5年10月～12月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和5年7月～9月 今期…令和5年10月～12月 来期…令和6年1月～3月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲10.9	→	▲11.3 (▲21.0)	↘	▲16.4
売上	6.8	→	6.5 (6.7)	→	2.4
採算	▲21.3	→	▲20.2 (▲35.1)	→	▲20.1

今期調査では、全産業合計の業況DIが-0.4ポイントの悪化、売上DI-0.3ポイントの悪化、採算DI+1.1ポイントの改善となった。来期の予測について業況DIは悪化、売上・採算DIは横ばいの予想となった。業種別の来期業況DIは、卸売業・小売業で上昇、建設業・サービス業で横ばい、製造業で下降を予想。売上DIは、小売業で上昇、建設業・サービス業で横ばい、製造業・卸売業で下降を予想。採算DIは、建設業・卸売業・小売業で上昇、サービス業で横ばい、製造業で下降を予想となった。

全体を通して、改善傾向やコロナからの脱却という声が多かった。一方でコスト増、過当競争、業務多忙による人手不足に悩む声が多かった。

経営上の問題点では、製造業・小売業で「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、建設業で「人材不足」、卸売業で「販売価格値上げ難」サービス業で「人件費高騰」がそれぞれ上位1位と問題点が分かれる結果となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業は上昇、卸売業は横ばい、建設業・小売業・サービス業は下降。

来期予測は、卸売業・小売業で上昇、建設業・サービス業で横ばい、製造業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲27.7	↗	8.4 (▲22.9)	↘	▲13.8
建設業	0.0	↘	▲15.4 (▲25.9)	→	▲16.6
卸売業	▲13.6	→	▲10.5 (▲15.4)	↗	▲5.3
小売業	▲20.0	↘	▲44.5 (▲16.6)	↗	▲33.3
サービス業	6.6	↘	▲12.0 (▲22.2)	→	▲16.0
全産業	▲10.9	→	▲11.3 (▲21.0)	↘	▲16.4

〔売上高のDI〕 製造業で上昇、卸売業・サービス業で横ばい、建設業・小売業で下降。

来期予測は、小売業で上昇、建設業・サービス業で横ばい、製造業・卸売業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	0.0	↗	13.9 (5.7)	↘	▲2.8
建設業	0.0	↘	▲11.6 (14.3)	→	▲7.7
卸売業	13.7	→	15.8 (19.3)	↘	0.0
小売業	0.0	↘	▲11.1 (▲11.1)	↗	11.1
サービス業	18.8	→	20.0 (0.0)	→	16.6
全産業	6.8	→	6.5 (6.7)	→	2.4

〔採算のDI〕 製造業・卸売業で上昇、サービス業で横ばい、建設業・小売業で下降。

来期予測は、建設業・卸売業・小売業で上昇、サービス業で横ばい、製造業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲36.1	↗	▲8.4 (▲37.1)	↘	▲30.5
建設業	▲16.0	↘	▲30.8 (▲46.5)	↗	▲23.1
卸売業	▲22.8	↗	▲15.8 (▲23.1)	↗	▲10.5
小売業	▲31.2	↘	▲55.5 (▲38.8)	↗	▲27.8
サービス業	▲3.1	→	▲4.0 (▲29.6)	→	▲4.0
全産業	▲21.3	→	▲20.2 (▲35.1)	→	▲20.1

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【低調】

『製紙・紙加工』…総じて改善傾向という声が多かった。「生産量は前年増で推移しており、売上高も前年を上回るだろう。加えて、年末商戦に向け需要が上向くのではないかと期待感もある」「コロナ5類移行により受注数はコロナ禍前の状況に回復している。原材料や燃料費の高騰について取引先が理解しており、加工賃は上昇し採算は改善している」「原材料価格が落ち着いてきたが、安心はできない状況」「業務用家庭紙はインバウンド効果でコロナ前の水準に近づいている。PPC紙（コピー用紙等の情報用紙）については、電子帳簿保存法への対応により需要減少になるだろう」「需要が依然として低迷している為、今後価格競争が起きる恐れがあり、危惧している。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「電気代等の補助金延長が2024年4月分以降は終了となり、物流の2024年問題（トラックドライバー時間外労働時間の上限規制）で運賃値上がりは必至。加えて諸々の経費が値上がりする状況で、需要バランスを整え、今後のコスト上昇に備えるのが急務である。」「物価高に伴う賃金の上昇を懸念している」「家庭紙は当面活発な動きにはなるが、PPC紙は先行きが暗い」「人件費の上昇で新規採用が難しくなる」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて需要低迷に関する声が寄せられた。「铸件及び鋼材店自体の受注が減少しているの、仕事量が減少傾向である」「3~5年後には、EV（電気自動車）ショックが訪れ、業界内ではリーマンショックに匹敵する大不況が訪れる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「同業者に話を聞いても、良い話題が出てこない」「2年ぐらいは仕事量が増加するが、早ければ3年後からEV車化による部品点数の半減で、大量の失業者が発生する」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「今のところ金型業界全般に明るい兆しはなく、企業格差が生じている。原材料価格の上昇も業界低迷の原因となっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「6月中旬まで見通しは悪い。8月以降少しずつ改善に向かう兆しがある」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「生産増加傾向ではあるが、コストが上がり採算が取れない」「自動車メーカーの不正問題により、2022年は普通トラックの登録台数は55,412台（対比67%）と大幅に減少。2023年は回復し63,000台程度と予測。トラック生産台数が増加し、弊社での生産・販売数も増加」「元請業者が大口の仕事をキャンセルされた影響で、一時的に仕事量が減少する」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「新分野への事業転換を図っていく」「2024年物流問題により運送会社の人手不足が深刻となっている。トラックへの更新費用が抑制され、需要の低下が懸念される」「1か月ほどの仕事減を乗り越えれば、通常の仕事量に戻ると思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「先行き不透明でわからない」「自動車業界では今年新車種の立ち上げが少なかった為、業界の仕事が例年に比べ少なかった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年度は自動車業界では新車種も増える見込みで、その為の設備投資案件等が増えてくる。ただし、EV化の流れの中で今後不要になる部品の仕事は厳しさを増していくだろう」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「厳しい状況は変わらないが、従業員の基本給を大幅UPして年を越せたことに一安心している」「中国日系企業向け需要低迷により、輸出キャンセルが発生している。また、円安による原材料の高騰も続いている」「戦争、円安、原材料高騰など、先が見通せず非常に不安である。設備投資面において遅延が出始めている」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材』…「前年に比べコロナの影響が少なかったので受注は多少上向きにはなったが、仕入価格高騰に対する商品値上げに労力を要した」「今後も多少は忙しくなると予想しているが、適時値上げできるかが課題となる」とのコメントが寄せられた。

『食品』…総じて、原材料価格の高騰に関する声が多かった。「円安と物価高騰の影響は今後も続くと考えられている。第一段階の値上げをしたものの満額とはいかず、春までには第二段階の交渉を行う予定。小売価格が上がると消費量は落ちると予想」「原材料、燃料、人件費の高騰が続いており、販売価格の値上げをせざるを得ない状況が続いている」「下請メーカーの廃業が増えている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「春の値上げに成功すれば状況はいったん落ち着くと考えている。ただし、今後も賃上げはしていかなばならない為、製造の効率化によるコストダウンなどを進める必要がある」「小売価格の値上げにより、販売数が減少していくのではないかと思われる」「為替の動向次第」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士市は地域を引っ張っていける力のある企業がないと思われる。中小企業は多くの業種において、有力な大手企業と共に成長発展していくしかないと考える。弊社は富士市に本社工場を構えているが、富士市の企業とは取引せず、代わりに富士宮市（医療機器）、静岡市（EV化・自動車部品）の企業と取引している。二つの市には、それぞれの分野でのリーディングカンパニーがある」「贅沢品、高級品を扱う取引先の受注が減少傾向にある。消費者の財布の紐が硬くなっているのではないかと感じる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	30.6	47.2	22.2	8.4	下降
売上高	41.7	30.6	27.8	13.9	下降
採算	19.4	52.8	27.8	▲8.4	下降

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…総じて諸経費高騰を懸念する声が多かった。「コロナ及びウクライナの影響が続き、物価高騰、円安、燃料費の増大が続いている。これにより、各企業の事業計画がうまく進んでいない。民間企業の設備投資が増えなければ、中小の建設業は厳しい状況が続く」「少ない案件に多数の建設会社が集まり過当競争が起きている。中小企業にとって大変な時期となっている」「資材・燃料の高騰の動きは高止まりとなっているが、民間工事においては、価格転嫁が非常に厳しく、利益確保が困難になっている」「大きなマイナス要因なし」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「2024年も物価高騰が続くと予想される。大手企業が設備投資を増やし、賃金を上げ続けていくと地方の企業にその資源が周りはじめると考える。引き続き厳しい状況は続くが、回復する兆しができることを見ながら状況を判断していきたい」「イスラエル・ハマスの紛争の混乱が長引けば、資材・燃料の高騰がさらに深刻になる」「人員不足の解消、定着性の確保が必要。働き方改革に伴う業務効率化の推進がカギとなりそう」とのコメントが寄せられた。

『建設車両等賃貸業』…「2023年上半期は悪かったが、下半期は回復。2月頃まで回復状況が続くと予想」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…総じて需要の変化に関する声が多かった。「省エネ、長期優良住宅等には補助金もするのでこれらの住宅が今後標準になっていく。子育て世代が小学校近くの空き家を買って、解体して建て直すケースが増えている。子育ての最中は学校近くで部屋数を確保

し、子供が巣立ったら小さい平屋建てを希望する傾向がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「諸経費や資材の高騰の影響がどのように表れるかしっかり見極めたい」「人口減少により先細りが予想される」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「材料の値上げが進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「先が見通せず、不安である」「公共工事の発注を増やしてほしい」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「中国経済の影響あり」「解体工事は順調に受注できている。土木工事も順調に受注できているが、盛土条例により造成工事等で書類の手間が増えている。リサイクルプラントはRC 砕石の販売難で過剰在庫となっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「来期までは受注は続くが、その後は営業努力次第となる。第 12 回事業再構築補助金が発表されたら、設備投資も検討したい」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「原材料の値上げが厳しい」「全体的に工事の依頼が減少している。燃料、材料の値上がりが続き大変である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「見通しは厳しい」「コロナ融資の返済が始まり資金繰りが厳しくなっていく」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「児童数が減少し東小学校が閉校。今から少子化対策をしても効果が出るのは 20~30 年後だと思う」「倒産は減ったと思う。若い人材が入ってこない為、平均年齢は上がっている」「ジャトコ依田橋寮の解体が始まりそうである。地域活性化につながる施設が進出してくれることを期待する」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業 況	7.7	69.2	23.1	▲15.4	横ばい
売上高	19.2	50.0	30.8	▲11.6	横ばい
採 算	11.5	46.2	42.3	▲30.8	上 昇

〔卸 売 業〕 景気ムード…【 低 調 】

『機械器具』…「仕入価格上昇の不安が続く」「物流の値上がりによる買い控えが進む」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「新規設備投資による受注が期待できない」「良くなる兆しは感じるが、具体的な受注案件は少ない。人材確保が急務である」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「物価高騰により車検整備の金額を抑えたい傾向が強い。ビッグモーターの事件の影響で車検時の部品交換も厳しくみられ、部品交換需要が落ち込んでいる」「車検の表年であり、落ち着いている」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…「現場では職人が足りず人員調整が難しい。手持ち案件は前年同期に比べ多い。見積りから、どれだけ価格を落とさず受注できるかが課題である」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…「相変わらず製紙原料は減少。さらにメーカーも生産減少で厳しい状況が続く。この先も同じ状況が続くのではないだろうか」とのコメントが寄せられた。

『紙』…「令和 5 年下半期は出荷数量の伸びが鈍い」とのコメントが寄せられた。

『包装資材』…「物流の 2024 年問題が不安。ロシアウクライナ戦争が集結すれば明るくなるだろう」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…「中国のインフラ設備が徐々に回復している。紛争地の復興需要で、韓国、ベトナムでは鉄スクラップの購入が増え価格が上昇している。米国経済の先高を見て、上昇していた非鉄スクラップの価格が、ここにきて下降している」「鉄鋼製品市場の低迷が続く、国内製鉄所の生産量の減少が続いている。12月に入り影響力の大きいトルコの生産増と、アメリカからトルコ向けのスクラップ輸出増もあり、海外マーケットの値引きにより国内鉄スクラップ多少上昇。ただ、アジア諸国（中・韓・印）では減産が続く低迷」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人件費、諸経費の値上げ等で中国よりもインドにシフトしている企業が多い。これからはインドに注視する」「今年残り少ないが鉄スクラップ値は横ばい。年明けも当面変化なし」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…「家庭紙は年末に向けて需要は増大傾向であり、以前より需要のバランスがとれるようになってきた」「世界的なSDGsの影響で、リサイクルプラスチックの売上が伸びている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「国際情勢、為替、エネルギー、税制等、我々にはどうすることも出来ない要因で価格決定される為、見通しは厳しい」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「相場の急騰と原料不足。コスト増加分を販売価格に転嫁できない。どこかで相場がピークを超えて下落に転じるだろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「ホームページを全面リニューアルしたところ、群馬県の福祉団体から注文が入り納品した。SNSでの情報発信力は非常に大きい。今後さらに力を入れていきたい」「インボイス制度に対し強い憤りを感じる。必要書類のために事務仕事が増え大変である。相手先がインボイス登録事業者であることが証明できればそれで良しと出来ないものなのか」「富士川かりがね橋の開通に向けて周辺地区の道路整備が進んでいるが、拡張される部分と現状のままの部分と混在しており、渋滞が予想され心配である」「新富士インターチェンジの北部地域に行政と一緒に新しい施設を作ってほしい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	15.8	57.9	26.3	▲10.5	上昇
売上高	42.1	31.6	26.3	15.8	下降
採算	15.8	52.6	31.6	▲15.8	上昇

【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣類』…「製造工場の廃業、問屋の縮小等が生じている。需要の減少を反映していて、業界全体が盛り上がらない」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…総じてコスト増と価格転嫁に関する声が多かった。「コロナ後に急成長、足踏み状態、回復基調など、コロナ後の業況は小売店により様々である」「賞与が出ても消費につながっていないように感じる。値上げによる買い控えが続いている」「米相場が値上がり続けているが価格転嫁しきれない状況」「材料の高騰」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナ明けで、益々良くなっていく」「人口減と高齢化による消費量の減少は、今後少しずつ影響してくると思う」「コスト増加分を価格転嫁できず利益減は免れない」「人員不足」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「スマホと連携して外出先から操作や管理が出来る家電が増えている。外出先からエアコンを操作し帰宅時に快適な室温をキープ。冷蔵庫のドアの締め忘れの通知機能。

洗剤自動投入機能で外から洗濯機を稼働や干し忘れ防止機能など。スマホ連携が進化してきている」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…改善に向かう声と物価高騰に悩む声が多かった。「希望小売価格はそのままで仕入れ掛け率は値上げするという大手玩具メーカーからの通達が数カ月前から次々にきている。上げ幅の大きい商品では 12%の変更となった。他のメーカーにも似た傾向が見られ大きな危機感を抱いている」「コロナによる装飾品の需要低迷によって、販売店・メーカーが減ってきている」「化粧品の国内消費は横ばい、中国での大幅減で輸出企業は苦戦」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「外国人利用客に限れば新富士駅の乗降客は既にコロナ前の水準に回復していると聞いた。円安を背景に今後も外国人利用の増加傾向は続くのではないか」「世情が安定しないと、装飾品の需要は回復しない気がする」「原料費の上昇に各化粧品メーカーがどこまで持ち堪えるかが、今後の焦点。値上げによる買い控え、または低価格商品へのスイッチが懸念される」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「業界全体として、在庫過多。春に需要があるので、今後は多少は改善するだろう」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』…「急須でお茶を入れて飲む文化が失われている。急須がない家庭が増え、リーフ（茶葉）を買う機会がない。今後も国内では供給過多が続く」「リーフ離れは止まらない。ゆとりを持った世代や一部の高齢者たちがやっぱりお茶だねという感覚でニーズが生まれている。ただこのニーズも少数派であることは変わらない」とのコメントが寄せられた。

『衣料品』…「メーカー、問屋が減少し、在庫も減少することで欠品の恐れがある。需要がないので物が作れない。原材料費が上がり値段の上昇が避けられない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士山周辺のプライベートスポットとしてのプチ観光が広がっている。大人数で押し寄せるのではなく 2、3人で立ち寄る感覚」「飲食店が増えているが、空き店舗や空地の利用を有効に活用できればいいと思っている」「ビッグモーターで話題になった路面の植え込みだが、行政の手入れが不十分な箇所を地元の人が有志で手入れをしようとしても禁止されているようだ。もっと実態に沿った植え込みにしてほしい」「富士駅・新富士駅を自転車で結ぶサイクルコネクトや、岳南鉄道に自転車を乗せる取り組みが、富士市の自転車推進として試験的に行われている」「富士市のキャッシュレスキャンペーンがあったが、2022年より利用が少なかった」「後継者問題からか店舗の閉鎖が増えてきたように思う」「富士駅北の再開発がクローズアップされているが、駅南が取り残されるのではないか。行政は駅南再開発については全く考えていないようだが、新富士との連結を考えた時、駐車場の拡充やEVバス対応など駅南口の再整備は必要だと思う」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	11.1	33.3	55.6	▲44.5	上 昇
売上高	16.7	55.6	27.8	▲11.1	上 昇
採 算	5.6	33.3	61.1	▲55.5	上 昇

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『クリーニング』…「生産、出荷量とも変動は少ない。需要は変わらないが必要人員の不足や派遣社員の補充等仕事の質の低下が進んでいる。燃料等の上昇、電力料金の上昇が利益を圧迫している」とのコメントが寄せられた。

『飲食』…「原材料の値上がりで利益が圧迫されている。商品の値上げで収益を改善していく」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「燃料の値上げが利益を圧迫している。ロシアとウクライナの戦争が終結しないと安定しない」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「人員確保が喫緊の課題である」とのコメントが寄せられた。

『求人広告・広告デザイン』…「各業界とも物価高による広告費削減が避けられない」「物価高の影響が都心部より半年遅れてじわりと大きくやってきた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「楽観はできない」「仕事がないと賃金アップもできない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争が続く」「中小企業や零細事業所において物価上昇分の価格転嫁と人手不足により業績改善が遠のいている」「インボイス対応、電帳法対応に追われている」「顧問先で人材不足を悩む声が多い。採用できず仕事を受注できない事業者が増加すると予測」「デジタル化に伴い、各種申請業務のオンライン化が進む。基本的にこれで顧客が離れていく事はあまり無く、オンラインへの対応ができれば、よりスムーズな手続きが可能となる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「国会でその場しのぎの政策ばかりで、支持率は下がる状況が想定され、金融政策がどうなるか厳しい状況が続くだろう」「人材不足はしばらく続く為、採用に強い事業者と零細事業者の差がさらに広がり二極化していく」「通常の許可申請業務（建設業、古物商など）は、若手同業者の微増で新規顧客獲得の競争がありうる。既存顧客の満足度を上げつつ、紹介などで価格競争に巻き込まれない営業活動をする必要がある。」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「人手不足が続いている。原材料の価格が前年比 130%に達しており、当社に限らず同業他社も苦戦している。仕事量は増えるも利益が圧迫。コスト増分を売上に上乗せできず厳しい」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「10/1 より国土交通省より告示があり、貸切バスの料金見直しがされ値上げが実現できた。お陰で賃金アップが可能となり、とても良かった。値上げできた事は良い事ですが、一方で今後の需要が下がらないかを懸念している」とのコメントが寄せられた。

『貸間』…「インバウンドの回復に伴い業界全体では回復基調にあるが、当施設にはまだ影響は表れていない。催事スタイルの変化に合わせ、価格改定等を検討する必要がある」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「岳南地域の経済景況はなかなか良くなる。それに伴いサラリーマンの実質所得が上昇せず、住宅資材の高騰により住宅を購入・注文する人が減少していると思われる。この傾向により宅地需要も低迷している」「引き合いが少ないわけではないが、決済が遅れるケースが目立つ」「分譲地が増え、売れているという話を聞く。建売業者が買って家を建てている。しかし、結果としてその建売住宅は売れ残っているように見受ける」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「物価高騰など長引けば消費は冷え込むのではないかと」「相変わらず供給過多に思える」とのコメントが寄せられた。

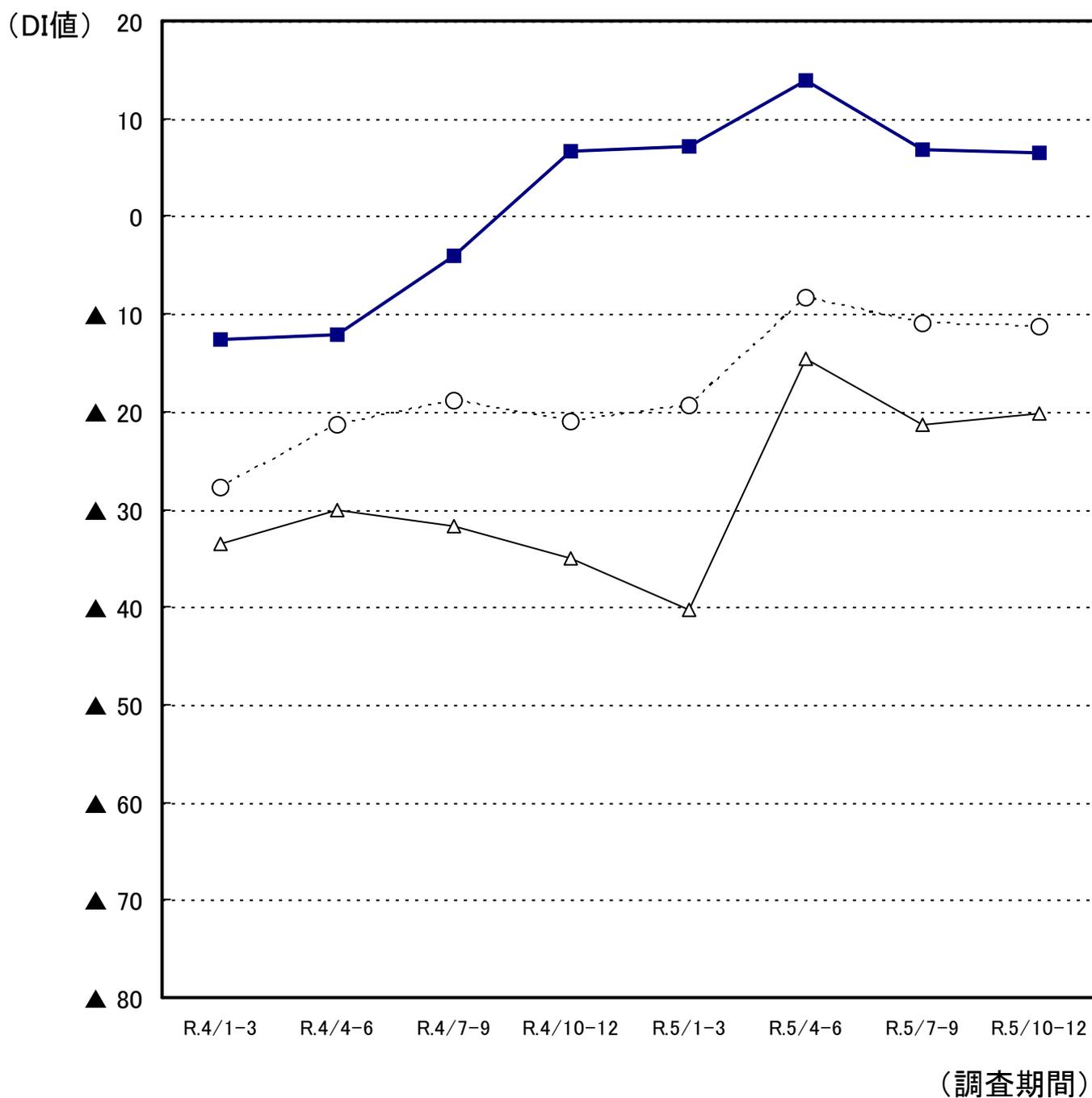
『その他』…「様々な規制が外れ、外国の方々が富士山目当てに新富士駅に来ているように感じる」「商店などの撤退が多く、更地が目立つ」「同業他社の減少が目立つ」「仕事は増えてきているが、コストや人手不足により受注できない現状」「地方の人材不足は顕著である。地域をあげて東京一極集中から住みやすいアピールを増やす必要がある」「工業用の土地等の購入需要が増えつつある」「富士川かりがね橋の開通が令和6年3月9日に決まった。

岩松の地価が上がることを願う」「零細企業は累積赤字なんて無理。人員整理しか手段がない」とのコメントが寄せられた。

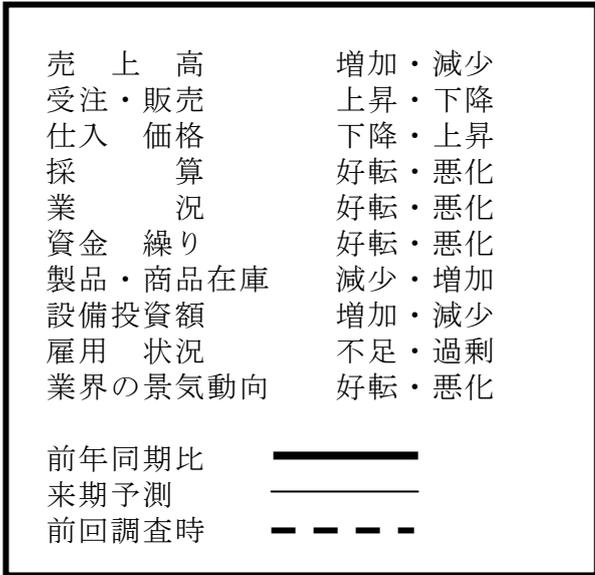
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	16.0	56.0	28.0	▲12.0	横ばい
売上高	40.0	40.0	20.0	20.0	横ばい
採 算	20.0	56.0	24.0	▲4.0	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

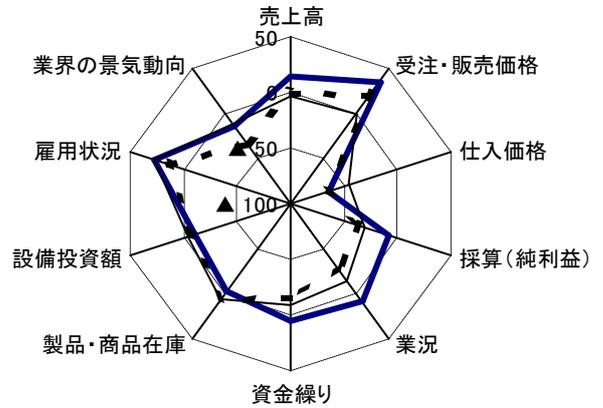
■ 売上 ○ 業況 △ 採算



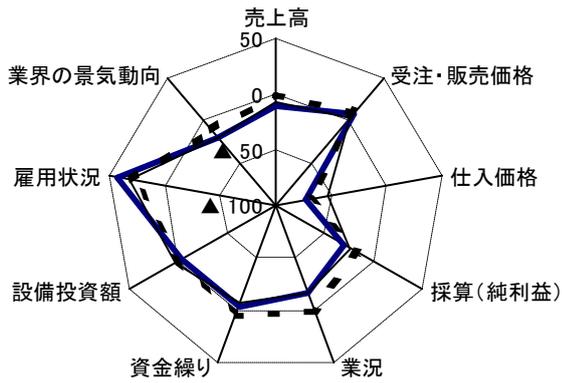
レーダーチャート



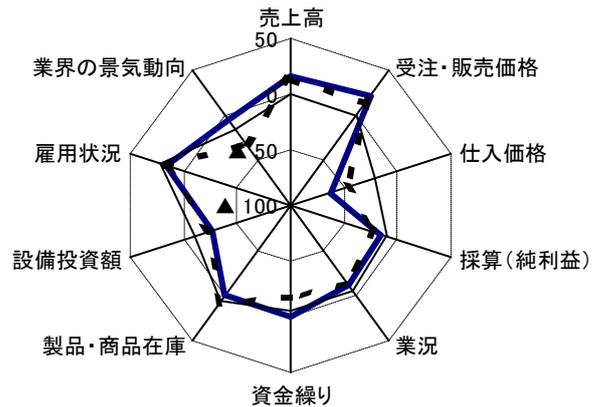
【製造業】



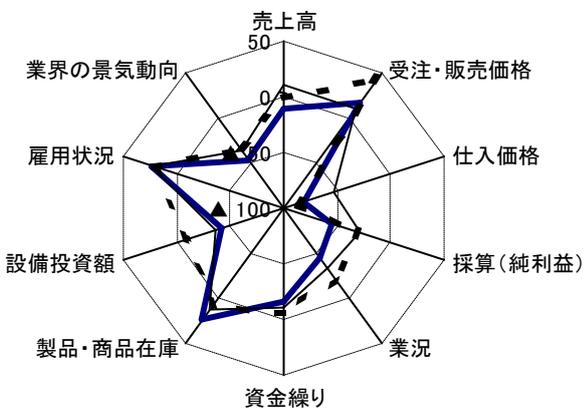
【建設業】



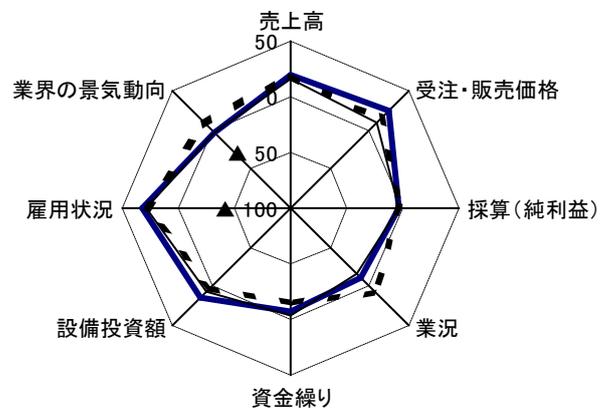
【卸売業】



【小売業】



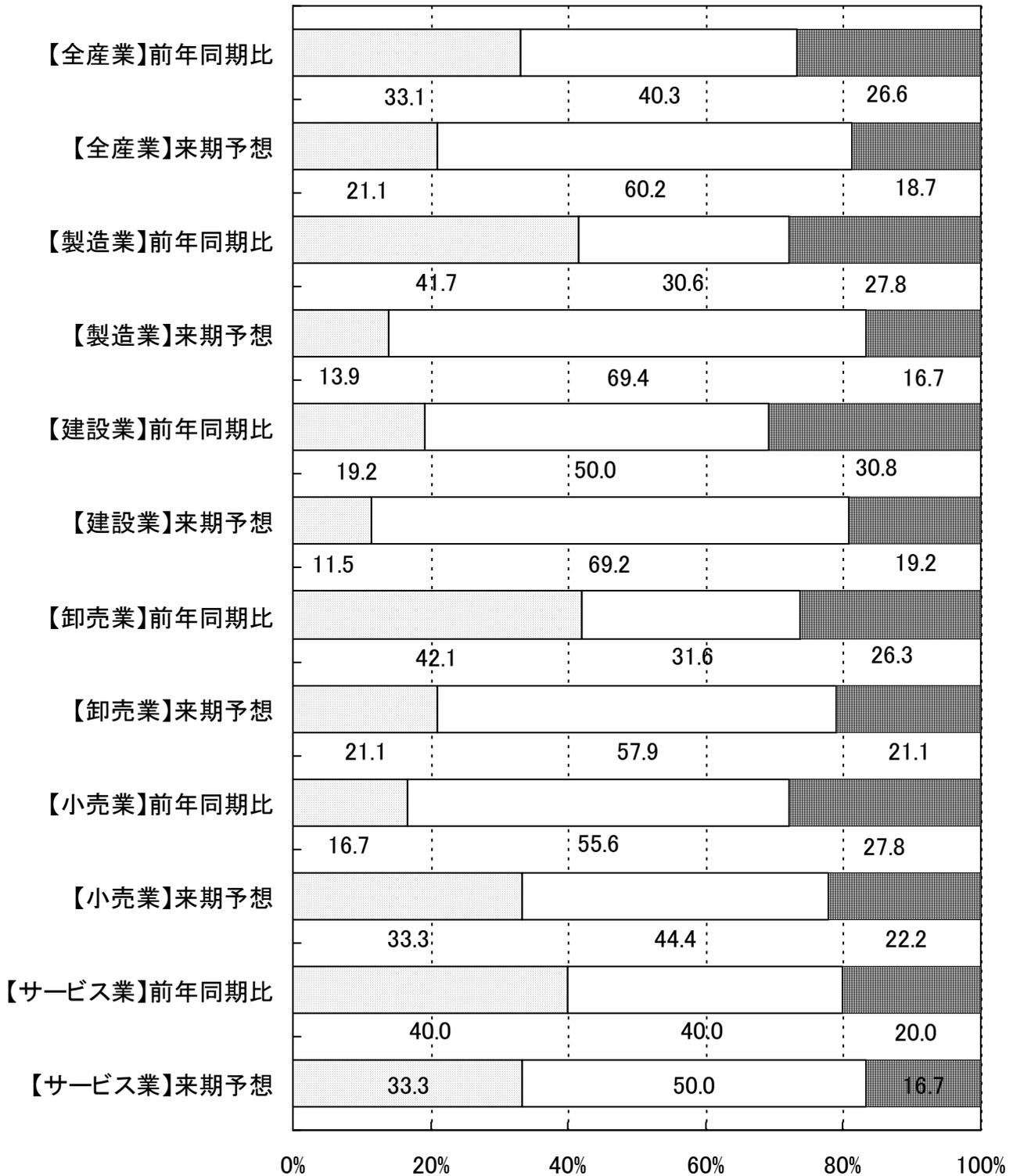
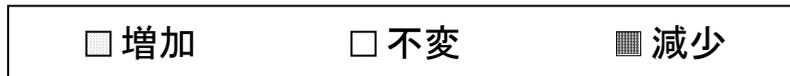
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人件費高騰</p> <p>その他 売上減に伴う利益減</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 人員不足</p>
卸売業	<p>1 位 販売価格値上げ難</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減／人材不足／設備老朽化</p> <p>その他 過当競争</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減</p> <p>その他 設備老朽化</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 過当競争／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 販売価格値上げ難／その他の需要の低迷／設備老朽化</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2023年12月21日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。

個人消費は緩やかに回復している。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は幾分持ち直している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を下回っている。貸出は、前年を下回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース）は、前月比低下している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、緩やかに回復している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：23/7月▲10.7% → 23/8月29.0%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。

（短観・設備投資額：22年度計画9.1% → 23度計画16.1%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：23/9月7.5% → 23/10月0.6%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：23/9月7.5% → 23/10月0.6% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 幾分持ち直している。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：23/8月▲0.7%⇒9月7.5%<速報値>)

自動車・同部品は、着実に持ち直している。二輪車・同部品は、横ばい圏内の動きとなっている。食料品は、横ばい圏内の動きとなっているほか、電気機械は、弱めの動きとなっている。化学は、幾分持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は、増勢が鈍化している。紙・パルプは、下げ止まっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。(7)

(有効求人倍率 季節調整値：23/9月1.19倍⇒23/10月1.20倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比23/9月2.4%⇒23/10月2.4%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(23/10月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(17件<前年比：▲22.7%>)
負債総額(65億円<同：152.2.0%>)

(2) 預 金 前年を下回っている。(前年比：23/9月末+0.6%⇒23/10月末▲0.2%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：23/9月末▲0.3%⇒23/10月末▲0.6%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：23/9月1.266%⇒23/10月1.265%)

以 上